

1, 本校の探究的な学習における実践

1-1 平成29年度 一年生「総合的な学習の時間」

○思考の出発点は常に、「生徒への期待」と「生徒への願い」

⇒ 面白い！に出会うチャンスがあれば、生徒たちから何かが生まれるはず。

⇒ 自立した学習者となり、今後の社会を創造できる人財となってほしい。

○一年次の目標

⇒ 主体的・協働的に学ぶ姿勢や、研究に対する倫理観を育みつつ、基礎的な探究手法を習得

若狭高校の教育目標
「異質のものに対する理解と寛容の精神」を養い、
教養豊かな社会人の育成

学習指導要領 総合的な学習の時間の目標
構造的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よび及ぶ問題を解決する基礎的な能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的・能動的・協働的に取り組む意欲を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようになる。

総合的な学習の時間(3年間)を通して
若狭高校が育成したい能力
里海湖・里山の豊かな自然環境・エネルギー研究施設等の多様な地域資源から課題を捉える能力。
さらには、地域の行政や住民組織・研究者・他国の人々等、様々な背景を持つ他者と協働しながら設定した課題を粘り強く解決する能力

初出 2015 若狭高校SSH中継書

地域資源を活用した探究学習

生徒自身の興味・関心をスタートとして、地域自治体の皆様にご協力をいただきながら探究活動を実施。
研究成果を地域の方や中学生に発表。

地域社会の活性化・地域環境の改善 等に関する課題研究

★地域資源を素材とする探究学習実施では、市の自治体の協力は不可欠

各自治体にご協力いただけることによって、

- 大人と共に社会課題を解決していくを通して、「生きて働く問題解決能力」を育成できる。
- 地域をより深く知り、地域についての考えを深めることを通して、地域を出たとしても、地域のことを愛し続ける気持ちも育てられる。
- 地域で働く方々の職業観・人生観を伺うことを通して、キャリアに関する意識を高められる。
- 地域社会に貢献する生徒を、各自治体と共に育てたい

★ロングホーム・教科情報・特別活動・総合的な学習の時間を中心とした年間学習計画(案)

学年	1学期	2学期	3学期	年間学習計画
1年	総合的な学習の時間(1)	総合的な学習の時間(2)	総合的な学習の時間(3)	総合的な学習の時間(4)
2年	総合的な学習の時間(5)	総合的な学習の時間(6)	総合的な学習の時間(7)	総合的な学習の時間(8)
3年	総合的な学習の時間(9)	総合的な学習の時間(10)	総合的な学習の時間(11)	総合的な学習の時間(12)

★地域の学校であるメリットを最大限に活かし、地域の皆様と強く連携する

1-2 探究的な学習の評価

課題設定能力の評価基準表(現在改訂予定)

評価	実態状況
5	地域の様々な情報を正確に収集し、問題の背景を総合的な観点でとらえ、自らの課題として課題を捉えた記述がある。科学的な観点で具体的な仮説が立てられており、解決可能な手法を用いた科学的で具体的な解決方法の記述がある。地域及び学習領域において持続可能な開発発展に役立つ課題であることが具体的に認識されている。自らの興味関心、知識や技術を十分に活用したうえで、課題を設定することへの積極性や探究活動の意義を具体的に記述している。
4	地域の様々な情報を正確に収集し、問題の背景を総合的な観点でとらえた記述がある。科学的な観点で仮説が立てられており、解決可能な手法を用いた科学的な解決方法の記述がある。地域及び学習領域において持続可能な開発発展に役立つ課題であると認識されている。自らの興味関心、知識や技術を十分に活用したうえで、課題を設定することへの積極性や探究活動の意義を記述している。
3	地域の様々な情報を収集し、問題の背景の記述がある。仮説が立てられており、解決可能な手法を用いた解決方法の記述がある。持続可能な開発発展に役立つ課題であると認識されている。自らの興味関心を示し、課題を設定することへの積極性や探究活動の意義を示す記述がある。
2	地域の情報の記述が少なく、簡た記述がある。仮説の記述が具体性なく、科学的に正しい。自らの興味関心、知識や技術の認識が良く、課題を設定することへの積極性や探究活動の意義の理解が深い。
1	地域の情報の記述がない。仮説の記述がない。自らの興味関心、知識や技術の認識が浅く、課題を設定することへの積極性や探究活動の意義を記述していない。

初出2014 若狭高校研究誌第44号 小坂教諭作成 大阪教育大学 八田氏の指導による

課題設定能力評価基準

- ① 研究の動機
- ② 科学的に解決可能な問題への定式化
- ③ 地域の問題認識の深さ
- ④ 持続可能な開発発展に役立つものであるか
- ⑤ 学びに対する自主的・主体的な態度

SSH研究部において、課題設定能力に関する評価基準のルーブリックは作成されていたものの、平成29年度の一年生の総合的な学習の時間においての評価の作成には至らなかった。生徒自身の振り返りに活用できるとともに、授業者の振り返り及び自己評価、カリキュラム全体の見直しに活用できるルーブリックを作成し、総合的な学習の時間において活用されることが望ましいと考える。

今後は、総合的な学習の時間を担当する、各クラス担任・副担任、また学年の教諭にご協力を仰ぎつつ、総合的な学習の時間の担当者が中心となり、その年その年によって変化する生徒の実態に即した評価基準を作成していきたい。

2, 先進校実践事例

2-1 札幌市立札幌大通高等学校



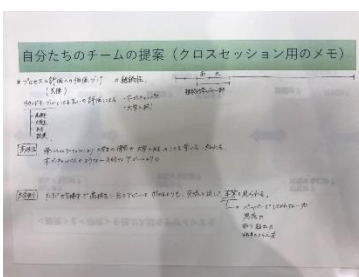
- 教科縦断型「みつばちプロジェクト」
- 民間企業との提携から生まれた多数のキャリア探究プロジェクトへの生徒参加
- NPO法人との提携から生まれた街づくり事業の運営スタッフとして生徒参加

多くの困り感を抱える生徒が在籍する中、教員からの多くの機会提供により生徒たちが積極的に民間企業や社会との連携のもと探究的で実践的な学習に参加していた。

実践例〈みつばちプロジェクト〉

学校の屋上にみつばちの巣箱を設置し、生徒たちの手で養蜂を行う。家庭科の授業ではちみつを使った商品開発、芸術の授業で巣箱など道具類の作成、商業の授業で商品販売や原価計算を行い、札幌市のイベント等を通じて販売。教科間で連携しプロジェクトを推進。多くの民間企業（パティスリーやデザイン会社など）がプロジェクトに賛同、協力を得て進めている。

2-2 金沢大学 高大接続ラウンドテーブル



- 学力観の質的転換
- 「探究的な学びへの転換」の取り組みや学びのプロセス
- 大学と高校が連動・協働し「学びの転換」を推進

探究的な学びへの転換が求められる中、どのように高校の「探究」と大学の「研究」をつなげるかをテーマにラウンドテーブル実施。高校生、大学生、大学院生、留学生、高校教員、大学教員、大学職員、民間企業の社会人がひとつのテーブルで自由討論を行った。

それぞれの立場から率直に忌憚のない意見を出し合い、これからの学びについて考えることができた。また、他校での探究的な学びへの取り組み、大学の体制や求められていることなどを知ることができた。

3, 今後の目標

- 若狭高校総合的な学習の時間及び探究におけるルーブリックの作成
- より実践的な学びの機会を提供するための地域との連携、協働体制づくりの継続
- 学校全体で課題探求学習への取り組みをより深化していくとともに、大学や県外校との交流を続け、より多くを学び続けていく